

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 21 日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520076

研究課題名(和文) アジア各地における密教図像と文献の比較研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on Buddhist Iconography in various region of Asia

研究代表者

田中 公明 (TANAKA, KIMI AKI)

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・専任研究員

研究者番号：00171744

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：研究代表者の学位論文『インドにおける曼荼羅の成立と発展』(春秋社)の英訳は、全篇の約3分の2の翻訳と校閲を完了した。副論文『曼荼羅グラフィクス』(山川出版社)の英語版は、2013年にネパールで刊行された。ナーガボーディが著した曼荼羅に関する2篇の重要著作『秘密集会曼荼羅儀軌二十』と『安立次第論』の2篇は、助成期間中に全篇のローマ字化校訂テキストを完成させた。2012のムスタン調査と2013年のカリフォルニア調査においても大きな成果があり、その一端はすでに国内海外の学会において発表した。写真のデータベース化については、チベットで撮影された3100点のデータベース化を完了した。

研究成果の概要(英文)：The translation into English of The Genesis and Development of the Mandala reached about 2/3 of the full text. Mitrayogin's 108 Mandalas, an Image Database was published in 2013 at Kathmandu. The romanization of the Sanskrit manuscripts of the Vimsatividhi and Samajasadhanavyavastholi, two important texts on the mandala had completed. Excursions to Mustang, Nepal and California produced significant results. I have already presented papers on them on occasion of academic conferences. Around 3100 slide films photographed in Tibet have already been put into a database.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学仏教学

キーワード：インド密教 曼荼羅 チベット仏教美術 サンスクリット写本

1. 研究開始当初の背景

日本における密教図像の研究は、平安時代初頭の両界曼荼羅の伝来より、すでに 1200 年の歴史を有している。とくに平安中期から鎌倉初期にかけては、事相・図像の研究が高揚し、密教図像について多数の文献が撰述された。明治維新以後、西洋の科学的研究方法を取り入れて批判的な仏教研究が始まったが、秘密裏に伝えられていた密教図像の研究は、なかなか近代化しなかった。しかし 1960 年代から 70 年代にかけて優れた密教図像の研究が陸続として発表され、わが国に伝来した図像の研究については、大きな峠を越えたといえる。これに対して欧米では 1959 年のチベット動乱以後、海外に逃れたチベット仏教指導者による布教活動により、チベット仏教が社会において一定の地歩を確立しはじめた。それにともない 8~9 世紀以後のインド密教に由来するチベット密教の研究がブームを迎え、欧米では現在でも、チベットに関する大学講座や研究機関の新設があいついでいる。ところがわが国では、近年の若年人口の減少にともない、いままで仏教研究を担ってきた仏教系大学や国立大学で、仏教学の講座の縮小廃止が頻発している。仏教美術研究のもう一方の担い手であった美術史学者も、国立博物館・文化財研究所等の独立行政法人化により、かつてのように学芸員・研究員が基礎研究に専念することが困難になっている。

とくにチベット・ネパール仏教に関しては、わが国には河口慧海・多田等観以来の伝統があるにもかかわらず、近年の仏教学講座削減の直撃により、大学・研究機関から常勤のポストが完全消滅するおそれさえある。

2. 研究の目的

本研究は、仏教学の領域に属する文献・思想研究と、世界各地の博物館・美術館・個人コレクションに収蔵される仏教美術研究、インド・ネパール・チベット文化圏への現地調査を有機的に結びつけ、インドで 5~6 世紀に出現した密教図像の萌芽が、やがて曼荼羅に代表される壮大なパントーンに発展し、さらには密教が伝播したアジア各地で多様な芸術作品を産み出し、大きな思想的影響を与えたという思想と文化交流の歴史を解明することを主眼としている。とくに日本においては、1. で説明した事情により、ポスト・グプタからパーラ朝にかけてのインド密教と仏教美術、チベット・ネパール仏教と密教美術、その影響を受けたシルクロード地域の密教美術の研究が手薄になっており、この空白域を埋めるのが本研究の主な目的となる。日本の仏教図像研究は世界の最高水準にあるが、残念ながらほとんどの著作・論文が日本語で出版されているため、漢字文化圏の研究者に、その水準が評価されることはあっても、欧米にその成果が知られる機会がきわめて少ない。そこで研究成果を日本語だけでなく、

英語・中国語等でも公表し、最近当該分野への関心が高まっている海外の研究者にも、最新の研究成果を知らしめる必要がある。

3. 研究の方法

研究方法に関しては、(1)海外での遺跡・作品・写本調査と写真撮影、(2)文献研究とローマ字化テキストの整定、(3)蒐集した資料のデジタル化と整理、(4)学会発表と成果の出版に分けて記述する。

(1) 海外での遺跡・作品・写本調査

2008 年の大暴動以来、外国人研究者の立ち入りに制約の多いチベット自治区を避け、ネパール領のムスタンやインドのオリッサ、バングラデシュ、中国内地に編入されている青海省・甘粛省の寺院・遺跡、欧米や中国・韓国の美術館・博物館、個人コレクションを中心に調査を行う。

(2) 文献研究とローマ字化テキストの整定

研究助成前から行っていた『秘密集会曼荼羅儀軌二十』の研究は、イタリアで発見された別写本の写真を対校し、大幅な改訂を行う。いっぽう『安立次第論』については、ゲッチンゲン大学所蔵の現存唯一の写本の乾板データに加え、チベット訳などの他資料を用いて、可能な限りのテキスト整定を行う。

(3) 蒐集した資料のデジタル化と整理

アナログカメラで撮影されたフィルムを、アダプターを介して高解像度デジタルカメラで撮影することにより、大量のスライドを短期間・小経費でデジタル化することができる。またフリーソフトの Fileinfolist を使用して、マイクロソフト社のエクセルで検索可能なデータベース化を図る。

(4) 学会発表と成果の出版

近年は海外の国際学会に参加しても、主催者側の都合で論文集刊行に至らないケースが多い。しかし 1. で説明した事情により、海外で仏教への関心が高まっているため、日本語では採算が取れない学術出版物も、海外の大学・研究機関のモノグラフを利用したり、物価の安いインド亜大陸で出版し、英語圏に広く流通させるという方法で刊行できる可能性がある。このような手法を活用し、研究成果をできるだけ多くの研究者に知らしめる必要がある。

4. 研究成果

研究代表者は 2007 年に東京大学大学院に提出した学位論文「インドにおける曼荼羅の成立と発展」により 2008 年に博士(文学)の学位を取得し、2010 年には日本学術振興会の出版助成を得て、(株)春秋社より同論文を出版した。同著は、インドにおける曼荼羅の成立と歴史的発展を解明した「研究篇」と、研究代表者がネパール留学中に発見した曼荼羅に関する重要文献(サンスクリット・チベット語)のローマ字化テキストを収録する「文献篇」からなり、さらに副論文として、コンピュータ・グラフィクスを用いたイン

ド・チベット系曼荼羅の図像データベース『曼荼羅グラフィクス』(山川出版社)を付した。

(1)しかし同著は英文要旨のみで、全文の英訳がない。1.で述べたように、当該分野は、わが国よりむしろ欧米やインド・ネパール等で、最近急速に関心が高まっているため、英訳がないと、折角の研究結果が海外では無視されてしまう。そこで「研究篇」全篇の英訳を開始し、助成期間終了までに全体の3分の2に相当する第6章までの英訳と、第5章までの英文校閲を完了したが、第6章以後の英訳は、今後の課題として残された。

(2)また副論文として提出した『曼荼羅グラフィクス』は、2013年に、ネパールのVajra Publications より Mitrayogin's 108 Mandalas, An Image Database と題した英語版が刊行された。(科研費より英訳費用の一部を支弁)

(3)いっぽう博士論文の「文献篇」に収録したナーガボーディの『秘密集会曼荼羅儀軌二十』の別写本を撮影した写真が、イタリアに所蔵されることが分かった。これは、イタリアの東洋学者G・トゥッチがチベットで撮影し、持ち帰ったものである。そこでイタリアのUniversita degli Studi di Napoli "L' Orientale" の Francesco Sferra 教授から研究代表者が発見したカトマンドウ写本と対校し、Manuscripta Buddhica シリーズの一巻として出版するという申し出を受け、すでに原稿はイタリアに送付したが、諸般の事情により刊行が大幅に遅れている。Sferra 教授からの連絡によれば、本年の夏頃に初校ゲラが出るとのことである。

(4)いっぽうナーガボーディのもう一つの代表作である『安立次第論』のサンスクリット写本が、ラーフラ・サーンクリトヤーヤナが撮影したゲッチンゲン大学所蔵サンスクリット写本の中から発見された。研究代表者は、東京大学東洋文化研究所の紀要と高野山密教学会の『密教文化』に、同書のローマ字化テキストを順次発表してきたが、2014年3月の『密教文化』227 所載論文で、全文のローマ字化が完結することとなった。

(5)研究代表者が過去に撮影した写真のデータベース化については、2014年6月現在、チベット(自治区以外のチベット仏教圏を含む)で撮影された3100点余りをデジタル化し、検索可能なデータベースとして入力を完了した。ただしインド・ネパール・欧米等で撮影された写真については、今後の課題として残された。

(6)2012年5月に実施したネパール・ムスタンの仏教美術調査は、ローマンタン・チャンパラカン1階・2階壁画の写真を撮影し、未比定の曼荼羅の同定に成功するなど、大きな成果があった。すでに同年7月に金沢で開催された国際シンポジウム「チベット仏教美術の過去・現在・未来」と、11月に北京で開催された第五屆西藏考古与藝術國際學術討論

会の席上、それぞれ日本語と英語で、成果の一端を発表したが、2014年現在、論文は刊行されていない。〔学会発表〕を参照。

(7)2013年5月に米国カリフォルニア州に所蔵されるチベット仏教美術の調査を実施し、『曼荼羅グラフィクス』の底本としたハンピッツ本とは別系統の「ミトラ百種」曼荼羅セットの写真データを入手するなど、大きな収穫があった。その成果に関しては、同年7月にモンゴル国ウランバートルで開催された国際チベット学会(IATS)で英語による発表を行い、さらに同年12月の密教図像学会では、日本語でより詳細な発表を行った。〔学会発表〕を参照。

(8)2013年7月に研究代表者が学術顧問を務める韓国ハンピッツ文化財団所蔵のチベット仏教美術の調査を実施し、同財団の公式図録 Art of Thangka の最終巻となる第7巻収録予定の100作品を選定した。キャプションの原稿はすでに韓国に送付しており、英訳・韓国語訳も進行している。図録出版と韓国滞在中の経費は財団が負担したが、ソウル往復の旅費のみ科研費で支弁した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計10件)

田中 公明、『秘密集会』の身体曼荼羅論 Nagabodhi の『安立次第論』第2章 サンスクリット写本ローマ字化テキスト、東洋文化研究所紀要、査読有、160冊、2011、209-228

Kimiaki TANAKA: On the Tradition of the Vairocanabhisambodhi-sutra and the Garbhamandala in Tibet, *Art in Tibet*, Leiden 2011, 193-201

Kimiaki TANAKA: Comparing the Cross-Cultural Exchanges of Esoteric Buddhism through Overland and Maritime Silk Roads, *Bali-Prajna*, Bali Sanskrit Institute 2012, 72-77

田中 公明、『《旁塘目録》与敦煌密教、敦煌吐蕃統治時期石窟与藏傳佛教藝術研究(敦煌研究院編)、2012、1-6

田中 公明、『秘密集会』における勝義の曼荼羅について Nagabodhi の『安立次第論』第4章 サンスクリット写本ローマ字化テキスト、東洋文化研究所紀要、査読有、162冊、2012、61-76

田中 公明、大乘仏教在家起源説再考 - 『般舟三昧経』の八菩薩と十六正士を中心に -、印度学仏教学研究、査読有、61-1、2012、348-343

田中 公明、胎藏五仏の成立について 『大日経』の先行経典としての『文殊師利根本儀軌経』、密教図像、査読有、第31号、2012、83-95

田中 公明、『秘密集会』「聖者流」における

修道論、東洋文化研究所紀要、査読有、164冊、2013、60-52

田中 公明、『秘密集会安立次第論』をめぐる諸問題 第3章所説の出生真言の解釈を中心に、密教文化、査読有、227号、2011(実際の刊行年は2013)、122-110

田中 公明、観音の語源再考 羅什以前の漢訳に現れる尊名を中心に、印度学仏教学研究、査読有、62-2、2014、1-10

〔学会発表〕(計12件)

田中 公明、『秘密集会安立次第論』をめぐる諸問題、高野山密教学会、2011年7月15日、高野山大学。

Kimiaki TANAKA: Comparing the Cross Cultural Exchanges of Esoteric Buddhism through Overland and Maritime Silk Roads, Ancient Silk Trade Routes Cross Cultural Exchanges and Legacy in Southeast Asia, Singapore Management University、2011年10月28日、

田中 公明、胎蔵五仏の成立について 『大日経』の先行経典としての『文殊師利根本儀軌経』、密教図像学会、2011年12月17日、大正大学。

田中 公明、大乘仏教在家起源論再考 『般舟三昧経』の八菩薩と十六正土を中心に、日本印度学仏教学会、2012年6月30日、鶴見大学。

田中 公明、2012 ムスタン調査 ローマンタン・チャンパラカンとトゥプチェンラカンの現況 国際シンポジウム「チベット仏教美術の過去現在未来」2012年8月25日、石川県立歴史博物館。

Kimiaki TANAKA: Investigations conducted in Mustang in 2012: On the Yoga Tantra Mandalas on the Second Storey of Champa Lhakhang in Lo Manthang, 第5届西藏考古与藝術国際學術討論会、2012年10月21日~24日、北京市順義賓館。

Kimiaki TANAKA: A Newly Identified Dharani-Sutra from Udayagiri II, International Conference on Buddhist Heritage of Odisha: Situating Odisha in Global Perspective, 2013年2月2日、Toshali Lalitagiri Resort, Orissa, India.

Kimiaki TANAKA: New Materials for the Vajravali and Mitra brgya rtsa, IATS (国際チベット学会)、2013年7月25日、モンゴル国立大学(ウランバートル)。

田中 公明、観音の語源再考 羅什以前の漢訳に現れる尊名を中心に、日本印度学仏教学会、2013年9月1日、島根県民会館。

田中 公明、炳靈寺考察、(敦煌研究所長劉永增氏による中国語同時通訳)、2013年9月15日、炳靈寺文物研究所(中華人民共和国、甘肅省)

田中 公明、CG を利用したマンダラの図像データベース、(青海師範大学札布副学長による中国語・チベット語同時通訳)、2013年9

月17日、青海師範大学(中華人民共和国西寧市)。

田中 公明、『ヴァジュラーヴァリー』と「ミトラ百種」曼荼羅集の新資料、密教図像学会(早稲田大学[戸山])、2013年12月7日。

〔図書〕(計5件)

田中 公明 他、仏教美術論集、竹林舎、図像学 イメージの成立と伝承、2012、9-24
田中 公明、図説チベット密教、春秋社、2012、306

田中 公明[学術監修]、麗しきチベットの仏たち、福井市郷土歴史博物館、2013、72
Kimiaki TANAKA: Mitrayogin's 108 Mandalas, An Image Database, Kathmandu: Vajra Publications 2013, 136.

田中 公明 他、大乘仏教のアジア、春秋社、2013、103-127

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
http://www.geocities.jp/dkyil_hkhor/

6. 研究組織

(1)研究代表者 田中 公明
(TANAKA, Kimiaki)
(公財)中村元東方研究所専任研究員
研究者番号：00171744

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：